

研修の特徴 内科

広尾病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

循環器
(新専門医制度)

プログラム責任者：循環器科 深水 誠二
プログラム期間：2年

広尾病院は心臓病医療を重点医療の一つとしており、循環器科は日本循環器学会・日本不整脈心電学会・日本心血管インターベンション治療学会の認定研修施設です。不整脈疾患・虚血性心疾患・心不全など、症例のバランスが良いことが当科の特徴であり、これらの診療に必要な最先端の設備も多数備わっているため、高度な水準の研修が可能です。また、当院では血管内治療センター（心臓血管外科・脳神経外科・腎臓内科・放射線科）や救命救急センター・病院総合診療科との連携も良好で、より幅広い臨床経験を積むことができます。

本コースが目標とする専門医資格は日本循環器学会循環器専門医です。

また、学術活動においては、研修期間をとおして、興味のある分野の臨床研究を行い、学会・研究会での発表や英文を含む論文執筆を行うことを目標としています。

大久保病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

循環器
(新専門医制度)

プログラム責任者：循環器内科 岡野 喜史
プログラム期間：4年

内科総合専門医を取得後、循環器内科専門医、不整脈専門医の取得を目指します。J-OSLERにリンクした形式で、日本循環器学会、日本不整脈心電学会等が提示する症例登録を行います。並行して、心臓超音波検査などの生理機能検査、画像診断、および心不全治療、心臓カテーテル検査、アブレーション治療、デバイス移植術などの必要症例の経験と学会発表の指導を行います。臨床業務においては、循環器内科診療のスキルアップができる（二次）救急科を兼務します。また他の都立病院循環器内科での三次救急診療や心臓血管外科でのローテーション研修も可能です。

腎臓内科
(新専門医制度)

プログラム責任者：腎臓内科 小川 俊江
プログラム期間：4年

内科総合専門医を取得後、腎臓専門医、透析専門医、移植認定医の取得を目指します。J-OSLERにリンクした形式で、腎臓学会が提示する症例登録を行います。並行して、透析専門医、移植認定医取得に必要な症例の経験と学会発表の指導を行います。臨床業務においては、透析を含む腎内科、腎移植外科、一般診療のスキルアップができる

（二次）救急科を兼務します。他の都立病院の腎内科（病院により特徴がある）、腎内科関連科（膠原病・感染症・循環器科・血液内科など）、国内第一の腎移植ハイボリュームセンターである東京女子医科大学などへのローテーションが可能です。

研修の特徴 内科

大塚病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

糖尿病 (新専門医制度)

プログラム責任者：糖尿病・内分泌代謝内科 中村 佳子
プログラム期間：1～4年

内科基本領域研修を終了後、内分泌代謝・糖尿病内科領域へ連動し、糖尿病内科研修を行い、領域専門医の取得および糖尿病専門医受験資格の取得を目標とします。必要に応じて、糖尿病合併症に関連した専門科領域のローテーションも行います。病棟では教育・血糖コントロール入院、糖尿病患者の周術期・入院中の血糖管理、耐糖能異常妊婦の管理を経験し、急性合併症の救急対応も学び、外来では、初診から診断、評価、治療方針決定などマネジメント能力を身につけます。研修指導医、専門医にいつでも相談できる体制です。患者教育活動・指導として、糖尿病教室、糖尿病週間イベント、医師会主催のウォークラリーに参加します。また、連携医療機関での半年から1年間の糖尿病研修も可能です。研修終了時にはチーム医療の主軸となり活動できることを目指します。

駒込病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

呼吸器内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器内科 細見 幸生
プログラム期間：3～4年

本プログラムは、がんと感染症医療に高い専門性を有し、東京都区中央部医療圏の二次救急病院である駒込病院を基幹施設として、東京都内にある連携施設・特別連携施設において施行されます。3年コース（内科専門研修コース）および4年コース（内科・サブスペシャリティ混合コース）が設置されています。いずれのコースも東京医師アカデミーとしてサブスペシャリティ領域を見据えたプログラムと連動しており、3年コースでは専攻医3年目からサブスペシャリティ研修を開始できます。4年コースでは、内科領域全般の研修を4年間かけて行うと同時に専攻医1年目から6か月のサブスペシャリティ専門研修を開始するコースです。

感染症 (新専門医制度)

プログラム責任者：感染症科 今村 顕史
プログラム期間：3年

当院は、「第一種感染症指定医療機関」に指定されており、有事の際に対応できる人材の育成を行っています。また、「エイズ診療拠点病院」にも指定されており、多くのHIV感染者の診療を行っています。さらに、「トラベルクリニック」としての活動も小児科との協働で行っています。その他、「感染制御科」と協働して、院内感染対策や感染症コンサルテーション業務を担っています。当院での感染症サブスペシャリティ研修修了後には、病院や地域における感染症のスペシャリスト・リーダーとして独り立ちできることを目標としています。ベースの基本領域を踏まえて、学会認定専門医、専門医機構認定専門医の取得を目指します。

研修の特徴 内科

駒込病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

消化器内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 飯塚 敏郎
プログラム期間：3年

本研修カリキュラムは、内視鏡治療に関する高度な知識や技術だけでなく、通常の検査、治療方針を決定するための精密検査、治療内視鏡の適応判断、内視鏡中の鎮静、偶発症への対応等に関する専門的知識の習得を目標とします。また他領域との連携や知見の共有、チーム医療の必要性を踏まえ、咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肝胆膵にわたる幅広い知識と技術を有することを目標とします。

技術的側面では、通常の上下部内視鏡検査が一人でできるまでを目指します。同時に内視鏡治療の介助の経験を踏まえ、治療手技の取得を図ります。学術面では、カンファレンスを通して、診断能力の向上を図ります。また、症例報告の学会での報告・発表や臨床研究を企画しその成果を発表する能力をつけます。

がん薬物療法 (新専門医制度)

プログラム責任者：腫瘍内科 下山 達
プログラム期間：2～5年

臨床腫瘍学を修得し、最終年度には腫瘍内科専門医の試験を受け合格することを目標としています。

担当臓器は他施設研修も含め、消化管、肝・胆・膵、造血器、呼吸器、乳房、婦人科、泌尿器、頭頸部、骨軟部、皮膚、中枢神経、胚細胞、小児、内分泌、原発不明腫瘍15領域にわたり、薬物療法および緩和医療学を習得します。

当科においては、固形癌や悪性リンパ腫の薬物療法、細胞免疫療法（CAR-T治療）、ゲノム診療（オンコパネル）について研修します。外来診療では副作用外来にも従事します。

がんの基礎的知識、薬物治療の原則、トランスレーショナル/臨床研究の適切な実施法とその解釈について理解するために、最低1つの臨床研究プロトコールを作成・実施します。研修期間中の臨床研究の成果を論文および学会（臨床腫瘍学会、ASCO等）で発表をします。

豊島病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

循環器科 (新専門医制度)

プログラム責任者：循環器内科 中島 淳
プログラム期間：2年

当科は日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会の認定研修施設です。当院は救急医療を重点医療に挙げており、東京都CCUネットワークに加入し循環器救急の受け入れも積極的に行っています。虚血性心疾患、不整脈疾患、心不全等の循環器疾患をバランスよく研修することができる環境です。

常勤医師は8名で、冠動脈形成術や末梢血管治療、カテーテルアブレーション等の侵襲的治療については、早い段階から術者や主治医として経験することが可能です。

本コースは循環器専門医の取得を目標としますが、日本心血管インターベンション治療学会や日本不整脈心電学会の専門医取得のための研修も兼ねています。

また研修中には関連学会での発表を積極的に行い、症例報告や臨床研究での論文発表を目指します。

研修の特徴 内科

荏原病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

消化器病
(新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 水谷 勝
プログラム期間：4年

4年間の研修期間中に、内科専門医および消化器内科医として必要な知識・診断手順・治療を身に付け、最終的には一人で外来および入院診療を担当できるよう育成していくコースです。2年次までに内科専門医取得に必要な症例を各内科で研修し、必要に応じて連携病院での研修を行うとともに、ER研修も行います。3・4年次は消化器領域中心の研修を行います。

消化器病専門医研修カリキュラム表に掲載された習得必要な症例について、日々の診療を通して学んでいきます。上部・大腸内視鏡検査、胆膵内視鏡検査、腹部超音波検査を習得し、診断手技に加え、指導医の介助のもとで行う治療手技も習得します。症例を通じて研修した成果を学会で発表し、論文作成を行えるよう指導します。

循環器内科
(新専門医制度)

プログラム責任者：循環器内科 戸田 幹人
プログラム期間：2～5年

内科専門医取得と併行して循環器内科専門医取得を目指します。1年次は呼吸器内科や消化器内科などをローテイトし、J-OSLERに必要な症例を経験し、2年次以降は荏原病院を主軸として循環器内科ローテイトを行い、循環器J-OSLERに必要な症例を経験します。指導医の下で心不全管理、生理機能検査、心臓カテーテル検査および治療、ペースメーカー植込み術など行います。多職種カンファレンスで症例の振り返りや検討など行いチーム医療を経験します。

当院で経験できない症例(先天性心疾患)や治療(経カテーテル的大動脈弁置換術など)については連携施設での研修を行います。研修施設は相談に応じて調整が可能で、三次救急診療の研修も相談可能です。また、循環器疾患以外の内科知識の習得や初期対応も継続して学習可能となっております。

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

消化器病
(新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 東 正新
プログラム期間：3年

消化器内科医として必要な消化器領域(消化管・肝胆膵領域)の知識および技術を習得することを目的とし、主治医(主担当医)として「消化器病専門医研修カリキュラム評価表」に掲載された全107疾患のうち症例経験の到達目標が2または3に該当する疾患を中心に58疾患以上を、消化管・肝・胆膵・腹腔・腹壁疾患のそれぞれに偏りのないよう経験し、150症例以上の症例数を確保します。

領域の基本検査として、上下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査を単独で行え、必要に応じて他の医師の介助のもとで内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下剥離術(ESD)、逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)および内視鏡的胆管ドレナージ、経皮経肝胆管ドレナージ、超音波ガイド下肝生検、ラジオ波焼灼術(RFA)を完遂できるよう技術を習得します。

研修の特徴 内科

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

循環器内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：循環器内科 黒木 識敬
プログラム期間：3年

本コースは、日本循環器学会専門医の取得を目指し、分野を問わず循環器内科の基礎から実践まで一貫して修得することを目的とします。虚血性心疾患に対する血管内治療では、適応判断から治療戦略、手技の完結までを段階的に学び、日本心血管インターベンション治療学会の認定医取得を目指します。

不整脈治療や構造的な心疾患の治療にも参画可能であり、重症患者への対応のため救命救急センターでの研修も選択できます。急性冠症候群に対しては、診断から急性期管理、心臓リハビリ、再発予防まで一貫して担当します。心不全管理にも注力しており、心臓リハビリテーション指導士の取得も支援します。

多様な症例データを活用して前向き・後向きの臨床研究を遂行し、主要学会での発表、さらに海外学会発表から英語論文作成までを一貫して指導する体制を整えています。

呼吸器内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器内科 小林 正芳
プログラム期間：3～4年

呼吸器学会が示す概念図のうち【連動研修タイプ】を想定し、東京都立墨東病院呼吸器内科及び連携施設/特別連携施設で、それぞれ1年以上の研修を行い、選択すべき施設と期間は専攻医の希望のほか、達成度、進捗度を合わせてプログラム管理委員会で決定します。

4年次はサブスペシャリティ専門医取得にむけた研修を継続します。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整の全人的医療を実践し、個々の患者に適切な医療の提供し、計画を立てて実行する能力の習得をもって目標の達成とします。

呼吸器専門研修で呼吸器専門医取得に必要な12疾患群、150症例以上の経験し、所定の呼吸器病学関連の論文及び呼吸器関連学会での発表を行います。

血液内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：血液内科 小杉 信晴
期間：3～4年

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍をはじめ、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、免疫性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの血液疾患全般に対し、迅速に診断・鑑別診断を行い、最適な治療を行っています。化学療法の副作用管理や、骨髄抑制時の適正輸血、感染症に対する診断、抗生剤の選択を学ぶ事ができます。

自己末梢血幹細胞移植を行っており、幹細胞採取や前処置、移植後の管理を行います。同種移植については連携病院にて経験していただきます。

手技としては、骨髄穿刺・生検、髄注、中心静脈ルート確保は必須であり、多くの経験を積む事ができます。血液疾患患者は病態、治療による合併症などにより、総合的な全身管理が求められ、ジェネラリストとしてのスキルを伸ばすこともできると考えます。

研修の特徴 内科

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

腎臓内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：腎臓内科 井下 聖司
プログラム期間：3年

腎臓専門医としての能力を高いレベルで習得することを目標とし、腎臓・透析専門医の取得を目指します。
ネフローゼ症候群や急性腎臓病、電解質異常などの症例が豊富で、病棟患者さんをチーム制で担当し、シャントアクセス・腹膜透析・療法選択外来等の専門外来も担当しながら、診断や治療を行います。

腎センターも運営しており、維持透析患者さんはほとんどおらず、入院透析や急性期の血液浄化を中心に行っています。

集中治療室や感染症科病棟での出張透析も多数行い、持続血液透析は集中治療科と協力して行っています。

腎生検だけでなく、内シャント造設術、動脈表在化術、長期カテーテル留置術、バスキュラーアクセスインターベンション、腹膜透析カテーテル挿入術などの手技を自立して行えることを目標とします。

肝臓 (新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 東 正新
プログラム期間：3年

消化器病専攻カリキュラムを修了後に「肝臓専門医研修カリキュラム」に定める症候群・聴講群、検査、処置などを経験し、肝臓専門医に必要な基本的知識として、肝臓の生理・代謝・解剖、肝臓病の病態・病理、臨床腫瘍学、法規(肝炎対策基本法、医療費助成、改正臓器移植法、身体障害者福祉法)を理解し、肝疾患全般に関連する知識の習得に努めます。

血液検査、腹部超音波検査を含む画像検査、薬物治療、栄養療法、経皮的治療、経血管的治療、経内視鏡的治療、関連する症状・救急病態への対応、超音波ガイド下肝腫瘍生検、ラジオ波焼灼術(RFA)を完遂できるよう技術習得を行います。

カリキュラムに定めた34疾患(目標症例数102)、12症状・徴候(目標症例数36)の7割以上を主治医(主担当医)として経験します。

感染症科 (新専門医制度)

プログラム責任者：感染症内科 中村 ふくみ
期間：3年

感染症科医が関わる業務は多岐にわたり、知識、診療技術が幅広く求められます。また輸入感染症に対応できる医師の需要が高まり、高度な知識を持つ感染症科医の育成が喫緊の課題になっています。当院は、入院・外来診療のみならず、院内コンサルテーション、院内感染対策、行政医療(第一種感染症指定医療機関)のすべてを行っている数少ない施設のひとつです。

通常感染症の診療、院内コンサルテーション、院内感染対策、行政医療、病院感染症疫学などについて研修、実践し、アウトブレイク時のリスクコミュニケーションも研鑽することで感染症科医としての能力を育成します。また、日本感染症学会が定めるカリキュラムに基づいての研修・論文発表1篇、学会発表2篇、計3篇を行い、感染症専門医取得を目標とします。

研修の特徴 内科

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

脳神経内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：脳神経内科 水谷 真之
プログラム期間：2年

内科専門医コース修了後に脳神経内科専門医取得を目指す医師、並びに脳神経内科専門医を取得後に更なる研修の継続を希望する医師を対象とします。研修年限に関してはレジデントの希望に応じますが、原則2年とします。当院内科プログラムでの連動研修が可能です。

当プログラムにおいて重点的に経験すべきは、脳卒中、けいれん発作、ギラン・バレー症候群や多発性硬化症などの自己免疫疾患等、神経救急疾患の診療です。必要に応じ、東京科学大学で神経生理、神経病理の研修を行います。希望があれば、集中治療室や救命センターでの研修も認めます。また脳神経外科の協力の下、脳卒中学会専門医取得のための研修を行うこともできます。

研修期間中、毎年2回以上の学会発表を行います。

全身性自己免疫・炎症性疾患 (新専門医制度)

プログラム責任者：リウマチ膠原病科 島根 謙一
プログラム期間：3～4年

目標は、専門医の取得はもとより、専門医として個々の患者さんに適切な診療を行えるようになることです。

①自己免疫・炎症性疾患

発熱疾患全般、基礎においては免疫学と遺伝医学に精通している。

②病変が多臓器

臓器ごとの解剖や病態生理を理解している。

③取えて臓器別に言えば筋骨格系を専門

リウマチ性疾患には様々な病因が含まれているが、それらを広く理解することが重要である。

④病因・病態・病理を踏まえて診断し治療方針を決める

各疾患について基礎と臨床の両面から精通している。

上記①～④を病棟研修、外来研修、各種勉強会を通じて診療能力を高めていきます。

<当院の特徴>

①救急・重症・難治性患者さんの診療

②専門性の高い医療の提供

③重症を中心とした妊娠合併膠原病患者さんの診療

消化器内視鏡 (新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 古本 洋平
期間：3年

以下に示す消化器内視鏡専門医受験資格を完了することを目標とします。

①領域経験症例数として規定されている上部消化管内視鏡検査(EGD)・治療1000例、下部消化管内視鏡検査(CS)・治療300例を経験する。

②可能な限り研修手帳に定めた疾患を経験する。研修終了時点でその80%を経験しJEDに登録する。

③領域全般について診断と治療に必要な検査所見解釈及び治療方針を決定する能力、専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得する。

上記目標に向けて、当科で定めたトレーニングシステム(ラダー)に沿って研修を行います。

研修の特徴 内科

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

内分泌代謝・糖尿病
(新専門医制度)

プログラム責任者：内分泌代謝内科 安田 睦子
プログラム期間：3年

内科専門医取得後に日本内分泌学会専門医、日本糖尿病学会専門医取得を目指す医師、並びにどちらかの専門医取得後にさらなる研修を希望する医師を対象とします。

当プログラムでは、専門医取得を目指し、内分泌救急、下垂体、副腎、甲状腺、副甲状腺、糖尿病、内分泌疾患・糖尿病合併妊娠などの疾患を入院、外来で経験します。また年に1～2回内分泌学会、糖尿病学会での学会発表を行います。

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

消化器病
(新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 並木 伸
プログラム期間：3年

消化器病学会専門医制度(消化器病学会版J-OSLER)に即した研修の提供を目的とします。内科専門医を基本領域とする消化器病専門医研修期間としては、専門研修2年次以降の連動研修が認められています。

当院を基幹施設として、消化器病急性疾患(消化管出血、急性胆道炎、肝膿瘍、重症膵炎、劇症肝炎など)、消化器癌診療(内視鏡治療(EMR, ESD, ERCP, Interventional EUS)や経皮的インターベンション(PTBD, RFA)、がん化学療法)まで幅広く研修を行います。

<備考:消化器内視鏡専門医コースについて>

専門研修2年次以降の連動研修が認められています。内科研修を3年で終えた医師でサブスペ研修に移行したい希望のある医師については、選考により4年次まで研修継続を認めます。

循環器
(新専門医制度)

プログラム責任者：循環器内科 加藤 賢
プログラム期間：3年

本コースは日本循環器学会専門医制度(循環器J-OSLER)に則した研修の提供を目的とします。

3年間の研修期間を基本として、循環器学会が規定する症例36例以上(心不全4例、ショック1例、不整脈6例、心臓突然死1例、血圧異常3例、虚血性心疾患6例、弁膜疾患3例、心筋疾患3例、感染性心内膜炎1例、肺血管疾患1例、先天性心血管疾患1例、全身疾患に伴う心血管異常2例、大動脈疾患1例、末梢動脈疾患1例、静脈・リンパ管疾患1例、心臓神経症・神経循環無力症1例)を経験することができます。

また技術・技能(循環器J-OSLERの修了要件は393例以上)については指導医の元で、心臓カテーテル検査・治療やカテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込み術、血液循環補助装置(IABP、インペラ、ECMO)、TAVI等を経験することができます。希望があれば一定期間の連携施設での研修や心臓外科での研修等も可能です。

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

呼吸器 (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器・腫瘍内科 北園 美弥子
プログラム期間：3年以上

本コースは、日本呼吸器学会専門医制度に準拠し、基幹施設1年以上を含む3年以上の研修で構成されています。

基幹施設である東京都立多摩総合医療センターでは、年間1,400件を超える入退院患者に対応し、肺癌などの悪性腫瘍、結核・肺炎などの感染症、間質性肺炎・喘息・COPD等の慢性呼吸器疾患、睡眠時無呼吸症候群など幅広く経験できます。

さらに気管支鏡検査、EBUS-TBNA、クライオ生検、気道ステント治療など高度な内視鏡診療も豊富に経験できます。連携施設での研修を通じて、救急医療、集中治療、抗酸菌診療、慢性呼吸器疾患管理など多様な臨床経験を積むことが可能です。呼吸器専門医取得に加え、内視鏡手技や感染症・腫瘍・アレルギー領域の更なる高度な専門研修へ発展させ、将来のサブスペシャリティ取得にもつなげます。

血液 (新専門医制度)

プログラム責任者：血液内科 塚田 端夫
プログラム期間：3年以上

血液専門医は、基本領域である内科専門医の総合的知識を礎に、血液学領域の専門的診断力と治療技術を体得した専門医です。多摩総合医療センターでの血液専門医研修では、再生不良性貧血や自己免疫性溶血性貧血などの「赤血球系疾患」、急性白血病や慢性白血病などの「白血球系疾患」、悪性リンパ腫や骨髄腫などの「リンパ系疾患」、後天性血友病などの「血栓止血系疾患」など、良性疾患から悪性疾患まであらゆる領域の症例の経験が可能です。また、血液悪性疾患に対しては標準とされている化学療法を中心に治療を行い、再発時には造血幹細胞移植も施行しています。

さらにCAR-T療法による細胞免疫治療を導入しており、当科では診断からすべての治療を行うことが可能です。

内分泌代謝 (新専門医制度)

プログラム責任者：内分泌代謝内科 佐藤 文紀
期間：3年

当科は日本糖尿病学会、日本内分泌学会の認定教育施設です。糖尿病については、1型糖尿病へのAHCL療、rtCGM、2型糖尿病へのGIP/GLP-1RAをはじめ、保険診療下での最先端の診療技術を絶えず臨床に活かし、その成果を発信しています。内分泌疾患については、甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、低血糖疾患など、豊富な症例数を有しています。

当院の大きな特徴として、消化器外科と連携し、高度肥満症に対する減量・代謝手術の術前術後の管理も経験することができます。また、臨床研究指導や症例報告指導にも力を入れており、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本肥満学会、日本肥満症治療学会等での発表を多数行っています。

研修の特徴 内科

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

腎臓内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：腎臓内科 土岐 徳義
プログラム期間：3年以上

本コースは、腎臓領域専門医制度に則した研修の提供を目的とします。

ベースとなる基本領域は内科の他、小児科、泌尿器科、外科です。初期臨床研修を終了し、専門医機構が認定する基本領域の専門医を取得している方、または、取得見込みの方が腎臓領域専門研修を開始できます。ただし、腎臓領域専門研修修了時には、基本領域の専門医を取得できていることが必須である。

なお、内科専門医を基本領域とする腎臓専攻医の研修期間は、内科専門研修との2年間の連動研修が認められています。連動研修において経験症例として認められるのは、腎臓指導医の指導のもとで経験した症例に限られます。研修終了時には、入院症例140例以上、外来症例60例以上の経験と、病歴要約計22編の記載を目標にする。

アレルギー（基幹型） (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器・腫瘍内科 村田 研吾
プログラム期間：2年

東京都アレルギー疾患医療専門病院の1つである多摩総合医療センターで診療科横断的に研修を行い、高い水準のアレルギー診療を実践できる能力を養成することを目標とします。専門医機構の認める範囲で他のサブスペシャリティと並行して研修することができ、研修年限はそれに応じて短縮が可能です。

当院の救急・総合診療センターや呼吸器内科の研修を中心に、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科でも実習・研修を行うことで、プリックテスト、皮内反応、負荷試験、分子標的薬、生物製剤や気管支サーモプラスティなど、アレルギー専門医の受験資格を得るのに十分な症例、手技を経験することができます。

また、小児アレルギー拠点病院である小児総合医療センターのアレルギー科で、最高水準の小児アレルギー研修も一定期間選択可能です。

アレルギー（連携型） (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器・腫瘍内科 村田 研吾
期間：2年

本プログラムは大学医局派遣など特定の診療科に採用される医師のための内科系3科（救急・総合診療センター、リウマチ膠原病科、呼吸器内科）、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科の合同プログラムです。

内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科のうち、いずれかの専門医を取得している医師が、その基盤領域の診療科に所属しながらアレルギー診療を実践できる能力を養成することを目標とします。

専門医機構の認める範囲で、他のサブスペシャリティと並行研修でき、研修年限はそれに応じて短縮が可能です。いずれの診療科に所属していても、所属長が許可する範囲で上述の診療科内での実習・研修が可能です。アレルギー専門医の受験資格を得るのに十分な症例、手技を経験することができます。

研修の特徴 内科

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

感染症科 (新専門医制度)

プログラム責任者：感染症内科 織田 錬太郎
プログラム期間：3～4年

当科では感染症専門医・指導医のもと、感染症診療と感染対策を学ぶことが可能です。感染症診療では院内コンサルテーション症例や外来症例を通じて多様な感染症を経験でき、当科特有の疾患（輸入感染症、HIV/AIDS、性行為感染症など）や免疫不全者の感染症もこれらに含まれます。他院感染症科とも連携しており、定期的な勉強会に参加して多施設での症例も共有することができます。学会、論文、執筆などの学術的活動も積極的に行っており、指導のもと経験することが可能です。

また、感染対策ではチーム医療としてインфекションコントロールチームの一員として、感染対策・抗菌薬適正使用の活動に携わります。

膠原病・リウマチ内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：リウマチ膠原病内科 永井 佳樹
プログラム期間：1～3年

基幹施設〈多摩総合〉では、専門医12名が指導に当たります。ほぼすべてのリウマチ膠原病患者さん約4,000人が通院されています。また、例年約600人が入院され、各種リウマチ外科手術（各種人工関節置換術、関節形成術ほか）や最重症/治療困難病態への内科的対応等を受けます。

連携施設〈多摩北〉は北多摩北部保健医療圏のリウマチ膠原病診療の拠点で、外来・病棟のほか、リハビリテーションに取り組みやすく、基礎医学にも明るい指導医が指導に当たります。連携施設〈多摩南〉は、内科領域で医師少数地域とされる南多摩保健医療圏のリウマチ膠原病診療の拠点です。外来・病棟のほか、ハイドロリリースを含めた筋骨格超音波検査やリウマチ外来における看護・リハビリテーション外来など、先進的なチーム医療を経験することができます。

消化器内視鏡 (新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 並木 伸
期間：3年

ベースとなる基本領域は内科のほか、外科です。本コースは日本消化器内視鏡学会専攻医研修カリキュラムに即した研修の提供を目的とします。

内科専門医を基本領域とする消化器内視鏡専門医研修期間としては、専門研修2年次以降の連動研修が認められています。多摩総合医療センターを基幹施設とし、消化器内視鏡全般(消化管出血、急性胆道炎などの緊急内視鏡治療)、消化管及び胆膵領域の消化器癌全般の精査内視鏡および専門度の高い内視鏡治療まで幅広い分野の研修を行います。

内科研修を3年で終えた医師で、サブスペ研修に移行したい希望のある医師については、選考により4年次まで研修継続を認めます

研修の特徴 内科

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

がん薬物療法 (新専門医制度)

プログラム責任者：呼吸器・腫瘍内科 北園 美弥子
プログラム期間：2年、5年以内

当院は日本臨床腫瘍学会認定研修施設で、がん薬物療法指導医4名による充実した指導体制を有します。造血器・呼吸器・消化管・乳房の4領域に加え、婦人科・泌尿器・頭頸部など全領域の院内ローテイトが可能で、豊富な症例を経験できます。原発不明がん・希少がんセンターを中心に、多職種カンファレンスや遺伝子パネル検査の検討を通じて最適な治療方針を学びます。

さらに、地域のハブ病院として近隣医療機関と連携しながら、専門性の高いがん医療を地域で完結できる体制を実践的に学ぶことができます。

また、診断から治療、緩和ケアまで一貫した診療を経験でき、若手医師への教育体制も充実しています。研修期間中には学会発表を経験し、がん薬物療法専門医の取得を目指します。

病院総合診療

プログラム責任者：救急・総合診療科 村田 研吾
プログラム期間：1年

総合診療、内科、救急などの基本領域研修の修了後に、都立多摩総合医療センターを拠点として、日本病院総合診療医学会認定の病院総合診療専門医を目指す研修プログラムを提供します。多様な症候・疾患への対応力、組織運営力、地域との連携力を養う充実の研修環境です。

当院単独での研修に加え、水戸協同病院、飯塚病院、川崎市立多摩病院、東京ベイ浦安市川医療センターとの連携研修も可能です。定期的な面談、勉強会、指導等により内容を補完します。当プログラム加入時にすでに日本病院総合診療医学会加入歴が2年以上ある場合は、最短1年間で研修修了が可能です。

多摩北部医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

腎臓内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：腎臓内科 小林 克樹
プログラム期間：3年（4年まで延長可）

サブスペシャリティ研修ができる病院は大学病院やそれに準ずるような大規模病院だけではありません。当院は、東京都の北多摩北部地域における腎疾患医療の中核病院です。日本腎臓学会の認定教育施設であり、ネフローゼ症候群や慢性腎炎を始めとして、保存期の慢性腎臓病や透析患者の合併症入院など、ほぼ全ての腎臓病に対応しています。この圏域は人口も緩やかながら増加を続けており、高齢化率も上昇しています。従って今後も腎臓病患者さんは増加すると予想されます。つまり症例には事欠かないわけです。

しかも中規模であるため融通が利きやすく、臨機応変な研修が可能です。腎臓専門医の研修をする上で恵まれた環境と言えるかもしれません。

是非、この東村山の地で腎臓専門医としての第一歩を踏み出してみませんか？

研修の特徴 内科

多摩北部医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

血液内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：血液内科 本村 小百合
期間：3年（4年まで延長可）

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群といった造血器腫瘍をはじめ、再生不良性貧血、溶血性貧血、後天性血友病などの血液疾患全般に対し、迅速に診断、治療を行い、抗悪性腫瘍薬の投与、副作用の管理、骨髄抑制の管理、輸血、感染症に対する診断と治療、悪性腫瘍の患者さんに寄り添っていくことを学ぶことができます。

当院は北多摩北部医療圏で最大の血液内科であり、唯一の自己末梢血幹細胞移植が可能な施設です。幹細胞採取や移植後の管理も行っています。豊富な指導医、症例数、無菌室数を持ち、複数の都立病院、大学病院と連携して院外研修が可能で、血液内科のすべての領域に対応できる血液内科医を育成します。国内外の学会発表も積極的に行っています。内科専門医研修2年目からの連動研修が可能です。

消化器内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：消化器内科 柴田 喜明
プログラム期間：4年

消化器内科研修に重点をおいた4年間の専攻医研修プログラムであり、専攻医はカリキュラムに基づき研修を行い、所定の終了要件を満たすことで日本消化器病学会消化器病専門医受験資格を取得できます。合わせて消化器内視鏡研修も行い、日本消化器内視鏡学会専門医受験資格も取得可能です。

当院は東京都北多摩北部医療圏における中核医療施設であり、他医療機関からの紹介患者や救急搬送件数も多く、消化器病センターを有し、消化器外科との円滑な診療連携を実践しています。外来やER、病棟診療を通じて、主治医として上下部消化管、肝胆膵のコモンディーズから稀な症例まで、幅広い症例経験を積むことが可能です。研修を通じてアカデミックマインドの育成も重視し、少なくとも年一回の学会発表または論文投稿が出来るよう指導します。

神経内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：神経内科 網野 猛志
プログラム期間：2～3年

内科専門医コース修了後に神経内科専門医取得を目指す医師、並びに神経内科専門医を取得後に更なる研修の継続を希望する医師を対象とします。当院の内科専門医研修プログラムとの連動研修が可能です。脳卒中、けいれん発作、ギラン・バレー症候群などの神経救急疾患や、認知症、パーキンソン病など変性疾患を経験することができます。

また、血液疾患やリウマチ疾患に合併した神経疾患の症例も豊富です。希望により、連携施設での集中治療室や救命センターでの研修も認めます。

また、東京科学大学で神経生理、神経病理の研修を行うことも可能です。研修期間中、毎年1回以上の学会発表を行います。

研修の特徴 内科

多摩北部医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

内分泌・代謝内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：内分泌・代謝内科 櫻田 麻耶
期間：3年（4年まで延長可）

北多摩北部医療圏の糖尿病・内分泌代謝疾患を担う中核病院です。

紹介患者の約半数が内分泌疾患で、非常に高い比率にあります。小児科との連携により、小児1型糖尿病や性腺疾患、遺伝的異常症に出会う機会もあります。

充実した糖尿病療養指導チームのもとで、多職種連携・地域連携も実践的に学べます。新病院での産科開設が予定されており、今後は周産期の糖代謝・甲状腺異常などの症例も増加する見込みです。

日本内分泌学会および日本糖尿病学会の認定教育施設として、領域専門医だけでなく、糖尿病学会専門医・内分泌学会専門医の取得までを見据えた研修期間をしっかりと確保できます。日本甲状腺学会の認定施設も取得予定です。内科専門医研修2年目からの連動研修も可能です。私たちと一緒に、専門性の高い医療を地域に届けてみませんか。

循環器内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：循環器内科 亀山 欽一
プログラム期間：3年（4年まで延長可）

当院は多摩北部医療圏で東京都CCUネットワークに加盟する循環器疾患診療の中核施設です。救急医療と共に、カテーテル的な冠動脈、不整脈治療などの高度医療を行っています。複数の都立病院等と連携して院外研修も可能で、国内外での学会発表や論文発表にも取り組んでいます。

本専門研修コースは、最新の循環器内科学の十分な知識を有し、循環器疾患の標準的な診療技術に基づく全人的な医療、生涯学習能力とリサーチマインドを有する医師を養成することが目標です。専攻医は日本循環器学会の定める循環器内科専門研修カリキュラム（循環器J-Osler）に基づいた研修を行い、修了要件を満たすことで循環器専門医の受験資格を取得できます。

内科専門医研修2年目からの連動研修が可能です。

膠原病・リウマチ内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：リウマチ膠原病内科 杉原 誠人
プログラム期間：3年（4年まで延長可）

当院のリウマチ膠原病科は、北多摩北部医療圏および埼玉南部地域から広く患者を受け入れています。

2人の指導医が在籍しており、外来、入院など様々なセッティングで関節リウマチや自己免疫疾患を中心とした豊富な症例を経験でき、充実した指導を受けることができ、関節超音波検査や基本的な生検手技などを身に着けることができます。また、最適な医療を提供するために必要な臨床知識の習得や臨床免疫学を習得できます。

多摩地域の都立病院ネットワークを生かした様々な勉強会の企画も多く、また東京都医学総合研究所と共同で行う臨床研究も積極的に行っています。

多摩南部地域病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

内分泌代謝内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：内科 本城 聡
期間：3年

当院は300床クラスの地域の基幹病院であり、内科では特に総合診療の素養をベースとした糖尿病診療を学べる環境が整っています。

糖尿病専門医として、糖尿病専門外来、入院患者対応、フットケア外来・糖尿病透析予防外来におけるチームカンファレンスに参加し、チーム医療の実践を経験します。糖尿病指導医を有するほか、看護師にも糖尿病療養指導士の資格を有する看護師がおり、レベルの高い診療を経験できます。

院内他科からのコンサルテーションについて、病棟に往診し、各科主治医とディスカッションしながら治療を行います。また、糖尿病を背景とした疾患についても理解を深め、糖尿病をベースにした感染症診療などについても十分な経験を積みます。全身疾患としての糖尿病の加療について、十分な理解と経験を得ることを最終目標とします。

リウマチ (新専門医制度)

プログラム責任者：内科 知念 直史
プログラム期間：3年

内科専門研修終了後、あるいは連動研修として3年間、リウマチ専門研修を行います。

多摩南部地域病院では基幹病院として2～1年の研修を行います。当院は地域の第一線に立ちながら、リウマチ性疾患の診療における中核的な医療機関としての役割を担っています。このため、患者の生活により近づいて、比較的頻度の高いリウマチ性疾患を中心とした急性期および慢性期医療を経験することが可能です。関節超音波検査、各種組織生検、整形外科との連携で手術症例の経験も積むことができ、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も身につけます。

連携施設では1～2年の研修を行います。多摩総合医療センターや連携大学などの高次医療機関では、重症例、難治例、複数の診療科が関与する症例などの研修が可能です。東京都医師アカデミーのスケールメリットを生かし、全人的医療を実践できるリウマチ専門医の育成を行います。

神経病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

神経内科 (新専門医制度)

プログラム責任者：脳神経内科 蕨 陽子
プログラム期間：2年

内科修了後の方が神経内科専門医を目指すコースです。

- 1) 当院の脳神経内科は7病棟（204床）あり、専門性の異なる病棟をローテイトし臨床医としての研鑽を積みます。専門性をより深めるため、自らに適した病棟を選択する事も出来ます。
さらに、神経に関する各診療部門（神経生理・神経放射線・神経病理・高次脳機能・リハビリテーション・精神・神経耳科・神経眼科の8部門）も並行して研修します。
研修の成果として、専門医試験は一回での合格を目指します。
- 2) 研究テーマを共有する部長・医長から指導を受けて臨床研究を行い、論文執筆や学会発表を行いながら、コース修了後の博士研究テーマを見出します。
- 3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育、多職種連携チーム活動、病院運営などに積極的に関わります。

神経病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

臨床神経生理

プログラム責任者：脳神経内科 蕨 陽子
プログラム期間：2年

神経内科専門医取得後の方が、日本臨床神経生理学会専門医（脳波、筋電図・神経伝導分野）を目指すコースです。

- 1) 全国最大規模の脳神経内科病棟で臨床医としての研鑽を積みながら、臨床神経生理の実践的な研修を行います。学会が定める脳波、筋電図・神経伝導検査のみならず、誘発電位、反復刺激検査、磁気刺激検査、神経・筋エコー検査などの研修も行います。
- 2) 臨床神経生理学を基軸とした様々な臨床研究にも携わり、国際臨床神経生理学会学術大会（ICCN）での発表を目標に学会発表・論文発表を行います。
- 3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育、多職種連携チーム活動、病院運営などに積極的に関わります。専門医取得後は、指導医や評議員を見据えて学会活動に貢献し、都立病院のブランド力向上に寄与します。

認知症

プログラム責任者：脳神経内科 蕨 陽子
プログラム期間：2年

神経内科専門医取得後の方が、日本認知症学会専門医を目指すコースです。

- 1) 全国最大規模の脳神経内科病棟で臨床医としての研鑽を積みながら、認知症の実践的な研修を行い、専門医に相応しい医学的素養、臨床技能、医療に対する姿勢を身につけます。日本認知症学会専門医が6名在籍しており、物忘れ診断外来や神経心理診察、新規薬剤による治療の研修を通して、診断、治療方針・計画、治療やケアの実践に必要な主治医としての思考過程や患者・家族への説明・働きかけなどについて深く経験し、実践・考察します。
- 2) 多職種連携や在宅診療、社会福祉政策面、学会活動などにも参画し、専門医としての包括的な姿勢を身につけます。
- 3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育、多職種チーム活動、病院運営などに関わります。

てんかん

プログラム責任者：脳神経内科 蕨 陽子
プログラム期間：2年

神経内科専門医取得後の方が、日本てんかん学会専門医を目指すコースです。

- 1) 学会認定教育施設の3次てんかん専門施設として、包括的てんかん診療の研修を行います。脳神経内科、脳神経外科、神経小児科、神経精神科にてんかん専門医が在籍し、てんかん治療総合センターの一員として、長時間ビデオ脳波モニタリング手術適応症例を経験します。隣接する都立多摩総合医療センターからのcritical care EEGのコンサルトで重積例も多く経験できます。
- 2) 脳波報告書作成をハンズオンで指導するほか、脳波カンファレンス、てんかんboard、てんかん診療連絡協議会を通して、専門医としての包括的な姿勢を身につけます。
- 3) 神経病院の将来を支える人材としての自覚を持ち、若手医師の教育、多職種チーム活動、病院運営などに関わります。